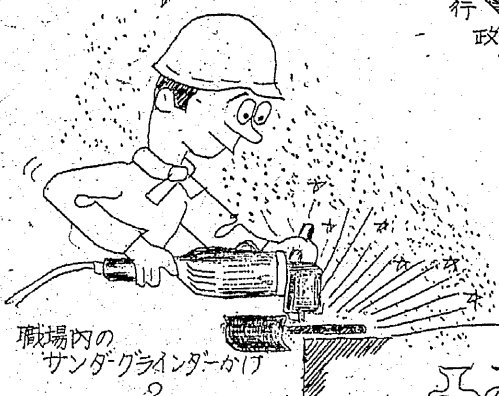


- 48~49年に中部地方の零細企業の粉じん作業員18,600人中、5,100人のじん肺患者発見。(名古屋保健衛生大)
- 昭和電工大町工場従業員1,300人中、会社の有労者は9名、組合で行った再検診では、レントゲンの異常影が993名
この中140名のじん肺患者が出る、一会社いわく「本人を心配させちゃいかんから……」

(炭鉱、トンネル工事以外の粉じん職場が増え、じん肺患者も急増している！(労働科学研究所) 5.15.3. N新聞)



長崎原産船渠建設で50年長、ただでさえ悪環境によるじん肺患者402名 (5.13. N新聞)



染め付け作業 (有田焼) これでもじん肺 10% (5.19. N新聞)

岩粉処理を強めよ

舞う岩粉、以前の何十倍

本紙は、常に三池炭鉱でじん肺患者多発のおそれが強まっていることを警告しつつ、会「会社は岩粉の処理を強めさせよ」という対策が見られぬまま、事態は悪化している。

このほど四山指導部五分会の新なりだが、不治の病のけい肺が聞、やまやま(20・15)も問題である。

現在けい肺にかかりやすいと考えられるのは採炭工で、岩粉状態は戦後より悪化しています。以前は小切羽ではほとんどなかった、つまり現れるのは病状が進んで岩粉が、現在では天盤を落として進み、と書いています。

断層で硬(ボタ)が出る場合、カッターで切った行く時は真っ白で何にも見え、この現場の実態は恐ろしい。

ガは三川指導部五分会新聞はぐるま(から)思われる。

現場は危険が一ぱい 安全職場確立めざし 共にたたかおう

三川指導部が揭示して警告

三川指導部は、災害、事故が多発しつづける三川鉱の現状に黙っておられず、「今坑内現場には危険が一ぱいだ。私たちは命まで売ってはいない。安全で働きたい職場にするために、共にたたかおう」と、三川鉱構内掲示板を通じ、全労働者に対して警告をうけ知らせた。

昭和五十年度の三川鉱の出炭は、計画の百九万五千トンに対し、約十万吨の赤字であり、さらに五十一年度も毎月計画出炭が達成できず、それを取り返すため三川鉱は、副長・保安長・保安員を三交響に配置して出炭増産に全力を注いでいる。

その結果保安対策が手薄となり、負傷者があふ、事故が頻発している。最近起った事故を列記すれば、(七月二日二番方開発で、発破の際、切羽にダイナマイト(十五本)を放置したまま発破を行い、その後ダイナマイトがなくなっていることに気づき、あわてて方ほうに連絡、切羽で二本、坑底タンブで九本、さらに選炭機で四本を発見した。

(七月七日二番方開発で、エンドレス(捲機)のワイヤロープ不良のためロープが切れ、列車が捲立まで約四十メートル逃走。

(七月八日、三番方三百五十メートル三十七ループ線より発車中の大型列車と他の大型列車が衝突し、大型列車が脱線四両。

右三件の事故は、いずれも人身にこそ被害が出ていないが、まかり間違えば、重大災害につながるものばかりであった。

弾圧にまげず 闘っています

大分 桃園 卓

組合結成三十年、まことにおめでとございます。

春闘後継続した闘いで、管理者と第二組合と、警察権力がグルになつて、刑事事件をデッチあげてきました。が、闘いを発展させておきます。

郵政省は、全連の全国大会期間に、対決姿勢をうち出してきまして、全連は十年戦争を位置づけ、闘いを強めます。

皆様のご健闘をお祈り申し上げます。

桃園さんは、「大分県西国東郡香々地町」の方です。

一面資本主義に感謝します

資本主義は、一生けん命働いてきた私に、低賃金と労働強化を押しつけたばかりでなく、健康まで破壊したのです。腹の立つのを、おさへ切れません。

しかし一面では、資本主義に感謝しています。闘うことを教えてくれたからです。

三池の皆さんに負けぬように頑張りますので、よろしく指導願います。

足立さんは、「京都市東山区山科西の岸の下町一五の六、山元荘」にお住まいです。

頑張っている仲間がいます 大阪 小川三喜雄

大阪では連日の光化学スモッグの発生で、目やノドがチクチクいた、身体のだるさを感じます。そんな大阪でも、頑張り過ぎなアカン……といった気持です。

「みいけの闘いは素晴らしい」というが、第二の方が多くいてはならないか、といった声のある中でも、自分の部署で頑張り通している仲間の報告が耳に入ってくることをお伝えしておきます。

大阪から送ってきた婦人集会参加特集パンフです。